

# 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	151	科目名	化学物質総合評価学概論2	サブネーム	化学物質リスク評価の基礎2		
共催機関名	化学物質評価研究機構	レベル	基礎～中級	講義枠	土曜日	講義時間	14:00～15:30, 15:50～17:20
科目概要	化学物質及び化学物質を含む製品について、その生産、輸送、利用及び廃棄に至るまでの過程におけるリスク評価手法の全般を理解することを目的とし、ヒトの健康に対する化学物質の有害性を確認するための手法の概要を解説する。 (化学物質総合評価学概論1からの続き)						

サブタイトル	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
人の健康への影響評価	1 公衆衛生学概論	職域における健康障害とその予防について解説する。水及び空気の衛生等の環境衛生を解説する。	9月17日	2号館102	石井聡子	化学物質評価研究機構
	2 疫学概論	疫学の三要素(時間、場所、ヒト)について解説する。具体的な例(カネミ油症等)により、疫学調査の概要を解説する。リスク評価における疫学の位置づけを解説する。	9月17日		高月峰夫	
	3 皮膚・眼刺激性試験	各種試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。試験結果が労働者のリスク管理や作業環境を整備するための基礎データとして、また化粧品などのリスクを評価するための基礎データに利用されていることを解説する。	9月24日	1号館301	石井聡子	
	4 免疫毒性試験	各種試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。試験結果が労働者のリスク管理や作業環境を整備するための基礎データとして利用されていることを説明するとともに、シックハウス問題等の社会的問題と免疫毒性との関連について解説する。	9月24日			
	5 一般毒性試験(1)	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。	10月1日	理学部3号館701	大塚雅則	
	6 一般毒性試験(2)	試験結果が化学物質のリスク評価における許容摂取量の推定等に利用されることを解説する。	10月1日			
	7 生殖発生毒性試験(1)	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。	10月8日	1号館301		
	8 生殖発生毒性試験(2)	試験結果が化学物質のリスク評価における許容摂取量の推定等に利用されることを解説する。	10月8日			
	9 遺伝毒性試験(1)	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。	10月15日			
	10 遺伝毒性試験(2)	遺伝毒性試験の抱える課題と発がん性リスク評価との関係について解説する。	10月15日			
	11 発がん性試験(1)	発がんメカニズムと発がん性評価における国際機関の活動概要を解説する。	10月22日			
	12 発がん性試験(2)	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説するとともに、新規発がん性予測手法について解説する。	10月22日	高月峰夫		
	13 体内動態試験	化学物質の毒性を理解する上で、体内動態を明らかにすることが重要であることを理解する。吸収(absorption)、分布(distribution)、代謝(metabolism)、排泄(excretion)の一連の流れを解説する。	11月5日			
	14 毒性試験法ガイドラインとGLP基準	試験の均一性を目指して試験法ガイドラインが設定されていることを解説する。試験結果の信頼性を保証するための優良試験書基準(GLP)について解説する。	11月5日			
	15 実験動物からヒトへの外挿	実験動物を用いて得られた試験結果から人に対する毒性を外挿する方法を解説する。外挿の際に用いられる不確定係数について解説するとともに外挿の限界について解説する。	11月19日			